

## 内田先生の退官によせて

尾崎 洋二 (天文学専攻)

内田先生が東京天文台から天文学教室へ戻って来られたのは、今から7年前の昭和62年である。当時東大付置研究所であった東京天文台では東大から独立して「国立研」へ移行するという改組計画が進行中で、内田先生はその計画の責任者である将来計画委員会委員長を務めておられた。その内田先生を天文学教室へ呼び戻したいと私達は考え、理学部教授会に提案、無事認められたが、その後内田先生が本当に理学部に来てくれるかどうか、とてもやきもきしたのを今でもよく覚えている。

さて、私が内田先生にはじめてお目に掛かったのは、先生が大学院生で私が学部学生であった時であるからもう35年も前のことになる。当時の天文学教室は麻布のソ連大使館横のバラックのような建物で、そこから現在の理学部3号館に引っ越すことになり、その麻布での最後の教室談話会が内田先生達の学年の修士卒業談話会であった。私にとってはそれが教室談話会へのはじめての出席だったので印象深い。私は先生の修士論文の詳細は理解できなかったけれど、とても優れた研究であることはその発表から感じられ、自分自身将来あんな立派な修士論文が出来るだろうかと心配になったことを記憶している。

その後私も大学院に進学し、少しの間であるが同じ大学院生として過ごした。先生はまもなく天文学教室の助手になられたため、今度は良き先輩として色々な形で指導を受けたり、お世話になったりした。当時、天文学教室の大学院生や助手などの若手の間では楽器を演奏するのが流行っていて、夕食後、教室はさながら音楽練習所と化した。先生はそこでバイオリンを始められたが、先生のバイオリンはみるみる上達したのには感心し

た。それと関係あるかどうか知らないが、先生はピアニストの奥様をおもらいになった。

先生は助手になられると間もなく、プリンストン大学、米国大気科学研究センター、ハーバード大学などに2年ほど留学され、研究生を送られた。当時大学院生であった私達は、先生から送られてくるアメリカ便りを心はずませて読んだものである。その後私自身も助手になり、アメリカへ行くことになった時は先生からアドバイスを受けたり、また更にコロラド州ボルダーへ赴任することになった時には、たまたま先生が滞在しておられて、私達家族の住む家を探してもらったりした。先生はいつも私の一歩先を歩いておられて、私は先生を目標にして歩いて来たように思う。いわば兄のような心強い存在であった。事実、先生はきわめて明るく面倒見の良いお人柄で、海外にも多くの友人、知人を持ち、私だけでなく多くの後輩を国際舞台に押し上げる手助けをなさった。

先生は昭和40年に東京天文台に移られ、そこで講師、助教授を経て、昭和53年に教授に昇任された。その後、前に述べたような経緯で天文学教室へ戻って来られたが、それまで20年以上天文台に勤務されたことになる。

先生のご専門は、天体電磁流体力学現象の理論的研究で、先生はまず太陽表面での電磁流体力学現象からこの分野に入られ、この方面では世界的にも第一人者として活躍された。そしてさらに、先生はより広く宇宙で生起する様々な活動現象において電磁流体力学現象がその基礎にあることをいち早く指摘され、この面でも世界的に見てパイオニアとしての役割を果たされた。特に、恒星形成時における双極流およびジェットについて電磁流体力学のモデルを提案され、そのモデルを野辺山45メー

トル電波望遠鏡を使って観測的に実証することに成功された。このような研究に当たっては、先生は異なった研究機関に属する研究者を組織して研究を推し進めるという点で、優れた才能を発揮された。先生はまた、1991年に日本が打ち上げた太陽X線観測衛星「陽光」のプロジェクトサイエンティストとして日米の科学者のまとめ役としてその力を遺憾なく発揮されている。

また、先に述べた天文台の改組の際には将来計画委員長として「国立天文台」へのスムーズな移行が可能となるように最大限の努力をされると同時に、東大における天文学の教育研究の充実にも心を配られた。先生のご努力は、天文台の国立研への移行に際して三鷹の地に理学部施設として

「天文学教育研究センター」の設立として実ることになった。先生は天文学教室へ移られてからも、天文学教室主任をはじめ、理学部人事委員長など学内、学部内の諸委員会などにおいてもその任務を誠実に果され、また現在は日本天文学会の理事長としてその重責を果たしておられる。

とても若々しく見える先生が本年3月末日で停年退官されるとは、私達身近にいる者にはなかなか実感がわきません。しかし、先生は東大退官後は東京理科大学で教鞭をお取りになるとのことですので、これは先生にとって単なるひと区切りに過ぎず、今後も変わらぬ学究生活を続けられることと思います。先生のご健康と益々のご活躍をお祈り致します。

